

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	映像論		
英文授業科目名	Visual Image Analysis		
開講年度	2005年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-		
開講学科・専攻	システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	兼子 正勝		
居室	西6-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kaneko@hc.uec.ac.jp	http://oz.hc.uec.ac.jp/

【主題および達成目標】
実際に映像コンテンツを制作することを目標として、カメラワークやモンタージュなどの映像技術から、コンセプトやストーリーの考え方・構築法までを、実習をまじえながら学習する。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
メディアリテラシーA

【教科書等】
資料を授業時に配布

【授業内容とその進め方】

映像コンテンツ制作における重要ポイントについて講義とディスカッション、および簡単な実習をおこないながら、平行して各学生に自分の作品コンセプト・制作計画を作ってもらい、最後には作品とレポートを提出してもらおう。なお、映像コンテンツ制作の技術および表現技法は、現在非常に多様になっているが、授業では基本をおさえるという意味で、映画における技術・技法を中心に扱う。また同じく基本をおさえるという意味で、作品制作にあたっては、「2人以上の人間が出会い話し感情を変化させる」という条件を課す。授業の進行はおおむね以下の通りである。

- 1) イントロダクション
- 2) コンセプトとストーリー1：ストーリーボード
- 3) カメラワーク1：フレーム・アングル
- 4) カメラワーク2：フレーム・アングルの現代的変容
- 5) モンタージュ1：対話とアクション
- 6) モンタージュ2：時間構成
- 7) モンタージュ3：モンタージュの現代的変容
- 8) コンセプトとストーリー2：コンセプトの現代的バリエーション
- 9) コンセプトとストーリー3：ディスカッションと制作計画打ち合わせ
- 10) 制作実習1
- 11) 制作実習2
- 12) 制作実習3及び作品提出
- 13) 合評会

なお、実習と作品制作にあたっては、DVカメラとノンリニア編集ソフトAdobe Premiere の操作が最低限必要となる。これらに不案内な学生を排除するものではないが、相応の努力が必要となることを理解されたい。

電気通信大学 平成17年度シラバス

また、実習をともなう授業という性格から、受講者数をおおむね14人までとしたい。それ以上の希望者がいる場合は、授業の最初で何らかの選抜をおこなう可能性がある。他学科からの履修も歓迎するが、こうした人数枠があることを了解していただきたい。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

作品およびレポートによる。これらの提出が最低達成基準である。

【オフィスアワー：授業相談】

水曜日6限、木曜日3限

不在の場合はメール等で連絡をとること

【学生へのメッセージ】

現在映像コンテンツは非常に容易に、また気軽に制作し発表することができる状況になっていますが、この授業では「人間」をどう撮るか、人間と人間の「出会い」をどう撮るかという、現代の映像にとっておそらくもっとも困難な課題を追求したいと思います。映画が誕生して100年。

映画がもっとも悩んだのもこの問題です。これからさまざまなメディア制作に挑戦していこうとする学生諸君にとっては、ある意味でなくもがなの問題設定かもしれませんが、そこが「面白い」と感じる人に受講していただきたいと思います。

【その他】